

国税庁 *2021*

NATIONAL TAX AGENCY
理工系人材のための採用案内

税務行政 × DX

目指すは、スマートな税務行政

これまでもデジタル・トランスフォーメーション（DX）の必要性は世界各国で認識されてきましたが、昨今のコロナ禍を受け、より加速化してきました。一方で、税務署に行くともだまだ各種手続きは紙ベースであったり、皆さんにとって身近な税金について、わかりやすい情報発信ができていないとは言えません。

そうした現状を抜本的に転換すべく国税庁企画課では、おおむね10年後のイメージを示した「税務行政の将来像」を平成29年に示していますが、今年6月に「あらゆる税務手続きが税務署に行かずにできる社会の実現」を軸にした将来像に改定しました。

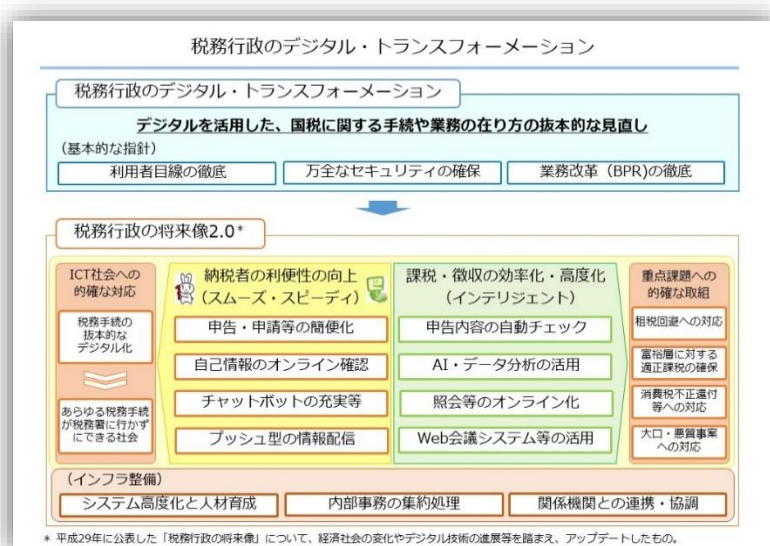
変革する社会の担い手として

この将来像が実現すると、例えば、皆さんのマイページ上で申告情報を確認しワンタップで確定申告終了♪という未来が訪れます。これを実現するには、わかりやすいユーザー・インターフェースにしつつ様々なシステムとの連携が欠かせないため、デジタルネイティブで、かつ、柔軟な発想を持った理工系人材の皆さんが果たすべき役割が大きいと思います。

今年9月にデジタル庁が創設されるなど、これまで以上に、「デジタルで全て完結する社会の実現」に向けた取組は加速していきます。税務行政のDXと一緒に推進してくれる理工系人材の皆さんの入庁を心よりお待ちしております！



国税庁 長官官房企画課 課長補佐 寶崎 雄輔(写真中央)
平成24年入庁。内閣官房番号制度推進室などを経て令和2年7月から現職。



column

理工系出身職員にインタビュー

学生時代の専攻と国税庁を志望した理由を教えてください！

大学時代は「地球科学」を専攻し、レーダーを用いた地下探査の研究をしていました。学生時代より地球環境や社会情勢に興味があり、世の中の基盤を支えるために必要不可欠な仕事に就きたいと思い、国税庁を志望しました。

数学科に所属し、解析学や統計学を学んでいました。国税庁では、税という軸を持ちつつ、**税務データの活用**など今まで培ってきた数学的素養を活かせるフィールドがあることに魅力を感じ、志望いたしました。

現在の仕事について教えてください！

私たちが所属する企画第2係は、税務行政における**デジタル化の推進**という役割を担っており、国税庁が所掌している情報システムに係る取りまとめ業務などを行っています。まだ慣れないことも多いですが、デジタル化推進のため、中長期的視点に立ち、組織として目指すべき姿を模索することにやりがいを感じるとともに、学ぶことの多い刺激的な日々を送っています。

最後に理工系の学生の皆さんにメッセージをお願いします！

国税庁における業務で関わるものは「税」だから、理系で学んだことは役に立たないというイメージがあるかもしれませんが、実際には「税」と一口に言っても、その先にある経済活動やアプローチ方法は多種多様だと実感しております。今後は研究を通して身に着けたノウハウや知識をさらに磨いていくことで、自分にしかできない形で業務に貢献していきたいと考えています。国税庁の業務の範囲は広く、理系の皆さんが苦勞して**培ってきた素養**を生かせる場がきっとあるので、少しでもご興味を持っていただければ幸いです。



国税庁 長官官房 企画課 企画第2係 三輪 和平



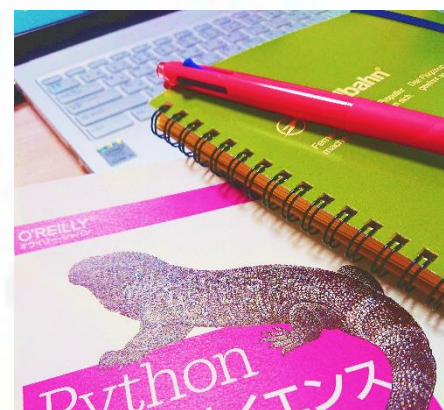
国税庁 長官官房 企画課 企画第2係 後藤 優太



高まるデータ活用への期待

国税庁のデータサイエンティスト

データ分析スキルやビジネスの高度な知識を駆使して組織の課題解決に貢献するデータサイエンティストは、21世紀における最も魅力的な仕事ともいわれています。実は、国税庁にもデータサイエンティストがいることをご存知でしょうか？データ活用担当では、国税庁の業務の高度化・効率化を目指し、データサイエンティストたちが、国税庁のデータを機械学習の手法により分析しています。世の中にデータサイエンティストは数多く存在しますが、税務のプロフェッショナルと共にビッグデータを駆使して分析できる人はほんの一握りでしょう。このような環境でデータ分析に携われるのは国税庁で働く魅力の一つです。



データを活用した新たな税務行政

諸外国の税務当局では、税務調査や納税者サービスの向上を目指してAIやデータサイエンスの活用に取り組んでおり、この動きは今後ますます活発化していくでしょう。このような中、皆さんが活躍するフィールドもより一層広がっていくと思います。データとアルゴリズムによる分析結果を活用しながら意思決定や課題解決を行う、次世代型の‘データドリブン’な仕事に、皆さんも携わってみませんか？

国税庁 長官官房 参事官付
課長補佐 データ活用・開発担当
谷口 香穂
平成25年入庁。留学(ロンドン大学)、内閣官房番号制度推進室、国税庁消費税室課長補佐などを
経て、令和2年から現職。

課題解決をリードする

データ分析の旗手として

私は統計及び諸外国の制度調査を担当しており、国税庁におけるシンクタンクのような仕事をしています。近年、統計の世界では、行政機関の保有するビッグデータをいかに活用するかがトピックとなっており、とりわけ国税庁は最大級のデータホルダーです。一方で、税務データは法令上も厳格に保護されており、中々活用できていませんでした。現在、私のところでは様々な分野の専門家を交え、どのような形で税務データの利用環境を整えていけるか議論しています。各分野の第一人者の方々と議論できることは国家公務員の魅力の一つではないでしょうか。



国税庁 長官官房 企画課 課長補佐
外国調査・調査統計・統計利活用 担当
宮本 温大
平成25年入庁。財務省政策金融課、川口税務署調査官、留学(ダブリンシティ大学)などを
経て、令和元年から現職。

新たなフロンティアでの挑戦

諸外国では、EBPM(証拠に基づく政策立案)の観点から様々なデータが活用されており、税務申告から月次の給与情報を把握し、統計作成や失業手当等の給付に活用しているような国もあります。しかし、我々の取組は始まったばかりで、統計分析に資するストラクチャーにどのように変換すればいいのか、納税者の秘密をどう守ればいいのか等課題は山積です。でも、見方を変えれば理工系人材の皆さんが切り開いていくフロンティアはきっと広大だと思います。

国税庁

NATIONAL TAX AGENCY



採用に関して知っておきたい6つのこと POINTS

Point 1 採用されやすい試験区分 はありますか？

総合職試験の全区分を対象に採用を行っており、理工系区分からも積極的に採用しています。入庁後も、試験区分によってキャリアパスが限定されることはなく、本人の希望と能力に応じて経験を積んでいくことになります。

Point 2 留学の機会がありますか？

総合職職員は海外の大学院に留学し、自身の関心分野（公共政策学、データサイエンス、法律学など）の研究を行う機会が与えられています。毎年海外の大学院に職員を派遣しており、留学中の職員は、高度な知識をその後の業務に生かすため研鑽に励んでいます。

Point 3 どのような人材が求められていますか？

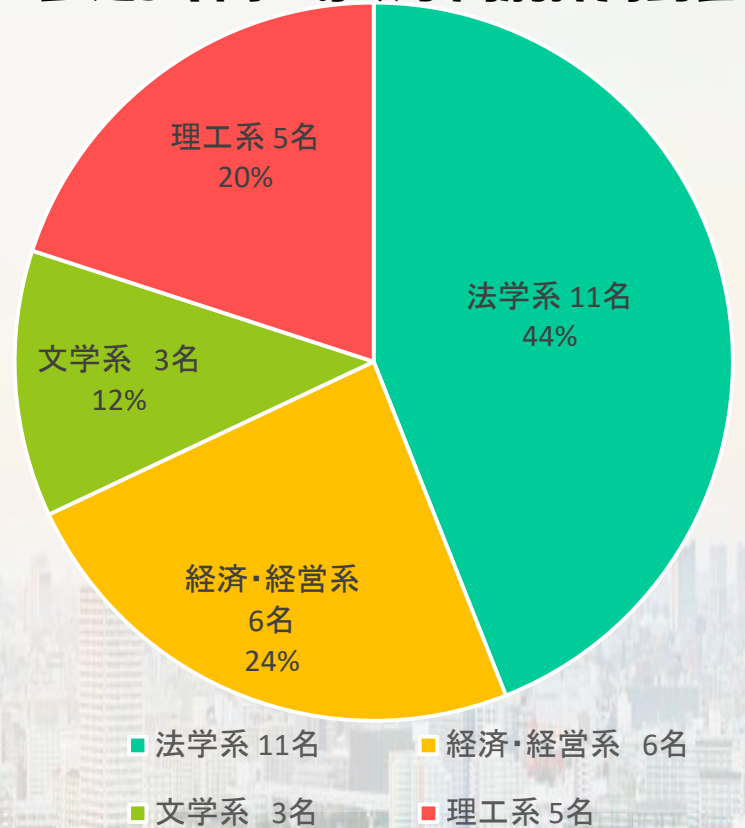
税務行政を取り巻く環境が大きく変化している中、複雑・多様化する行政ニーズや経済・社会の変化に対して、前例や現状にとらわれず柔軟な発想で対応することが求められています。特に最近では、税務行政のDXに向け、デジタル化の推進やデータ活用の素養のある人材のニーズが高まっています。

Point 4 法律や経済に詳しくないけど大丈夫ですか？

採用時点で、法律・経済はもとより税に関する専門知識は必要ありません。理工系のバックグラウンドを活かしつつ、仕事をする上で必要な専門知識は入庁後、日々の業務や各種研修で身につけられるので、心配ありません。

Point 5

直近3年間の専攻学問別採用割合



Point 6 採用後はどんな仕事をしますか？

税務行政の企画・立案に従事します。具体的には、税務調査や納税者サービスの高度化・効率化、国際交渉、税務署長としての現場の指揮などです。その中では、データ分析や最新技術を用いたサービス改善に携わる機会もあります。

国税庁 2021

NATIONAL TAX AGENCY
理工系人材のための採用案内

国税庁長官官房人事課企画係

03-3581-4161(内線3633)

<https://www.nta.go.jp/>

E-mail:saiyo@nta.go.jp

国税庁採用HP

